

# 津波で壊滅 7年ぶりに

# 閑上にヨットハーバー復活

東日本大震災で甚大な津波被害を受けた名取市閑上地区に、7年ぶりにヨットハーバーセーリングイベント「北日本オープンヨット」が復活する。5月25日には学生らが主催するト選手権が開催され、



再整備されたヨットハーバーから海を眺める伊藤さん（名取市）

## 来月25日 学生らがセーリングイベント

東北地方のセーリングの拠点が再スタートを切る。

仙台東部道路名取インターチェンジから車で約10分。ヨットハーバーの再建が進む閑上港名取川河口周辺では、ショベルカーなどの重機がせわしなく動いていた。ヨットハー

バーの目の前には太平洋が広がり、頭上では仙台空港に離着陸する航空機が横切った。

「やっと僕らの居場所ができた」。同

選手権事務局の伊藤大貴さん(23)は東北大4

年からは喜びを口にしながら、震災以前、ヨットハーバーには県内の高校や大学のヨット部だけでなく、東北各地のセーラーが集っていた。しかし、津波で休憩所などの建物は壊滅

し、当時保管されていたヨットのほとんどが破片も見つからないほどの被害を受けた。

セーラーは七ヶ浜町

など付近のヨットハーバーに間借りして練習をしてきたが、201

6年から復旧工事が始まり、完成すれば123艇のヨットの保管が可能になる。伊藤さんは県内で唯一、学生として県セーリング連盟の理事を務め、「復活する閑上を拠点に学生

の力で日本のセーリングを盛り上げたい」とイベントの開催に向けて奮闘してきた。



東日本大震災での津波で損壊した閑上ヨットハーバー—県セーリング連盟提供

同選手権ではレースだけでなく、世界で活躍するトップ選手のトークショーや、「ゆりあげ港朝市」と仮設商店街「閑上さいかい市場」の物産展も開かれる。伊藤さんは「普通の大会と違うさまざまな発信の仕方、ヨットと海の楽しさを伝えたい」と話した。

【早川夏穂】